

# デザインソフト PixC ~ピクシー~ を開発

## ネットワーク情報学部・上平プロジェクト

## 大好影響評



▲ メンバーが制作したピクトグラム



▶ 試作を体験する外国人女性(2月21日、防災訓練で)

「非常口」や「禁煙」のように簡潔な記号で情報を伝えるピクトグラム(視覚記号)。そのピクトグラムを自在に作れる情報デザインソフト「PixC(ピクシー)」をネットワーク情報学部・上平崇仁プロジェクトの学生10人(小菅航平リー

ダー、いずれも4年次)が開発した。川崎市国際交流センター(中原区)の防災訓練(2月21日)で試作したところ反響は



## ピクトグラムが視覚記号が自在に

「開発に取り組んだメンバー(右端が上平教授)」。成果は7月に開かれた日本デザイン学会で発表される。

PixCは「ピクトグラム」×「クリエイティブ」の略。内蔵する約100種類の図柄から必要なものを選び、位置や向き、角度などを調整して完成させる。「手を洗おう」なら蛇口と水、手を二つ組み合わせる。下部に日本語や英語で短文を打ち込むこともでき、マウスの操作でイメージに近づけていく過程が楽しい。あとは印刷し、貼るだけだ。

多くの外国人が参加した防災訓練では「地震車」「炊き出し」など10種類が掲示された。フィ

リピン人の女性は「子ども一枚のピクトグラムのほにもわかりやすい。目も情報で得られると安心」と笑顔に。試作を体験した人からは「ゲームとしても面白い」と好評で、迎スミ子センター長は「情報が入りにくい人にピクトグラムが有効だと実感した。磨き上げてさらに良いものにしてほしい」とエールを送った。

外国人向けの案内表示の実情を探るため、メンバーは都内4カ所の宿泊施設(ゲストハウス)や横濱駅、東京ソラマチで調査。昨年12月には専大国際研修館に試作品を掲示し、留学生に感想をアンケートする一方、同館の職員に実際にパソコン

で掲示物を作成してもらい操作性をテストした。同館で必要とされる掲示は「食器を洗って」「冷蔵庫に入れる物には名前を書いて」など生活の場ならではの内容。小菅さんは「ユーザー自身が作ると的を射たピクトグラムができる。注意事項を長々書くより印象も柔らかい」とPixCの可能性を再確認した。

多摩区内のベンチャー企業が開発したミクロ吸盤で吸着するシート(川崎ものづくりブランド製品)に印刷することで、テープなどが要らず使い勝手も向上した。上平教授が合格点をつける完成度で、学会発表に挑む。

大。成果は7月に開かれた日本デザイン学会で発表される。



▲ 2012年のベンチャービジネスコンテストでプレゼンする山賀さん

山賀美裕さん(商4)は、さまざまなビジネスプランコンテストに挑戦、他大学の学生と競い合うことで好成績を収めている。

同ゼミの山崎貴将さん、張辰珠さん(いずれもマーケティング学科4年次)と一緒に参加した今年1月開催の第10回

商学部・高橋義仁ゼミの山賀美裕さん(会計学科4年次)は、さまざまなビジネスプランコンテストに挑戦、他大学の学生と競い合うことで好成績を収めている。

昨年、東京大学大学院生とともに3Dプリンタによる次世代オーダーメイドの提案。第10回キャンパスベンチャーランプリ(日刊工業新聞社主催)で東京優秀賞、さらに第11回学生ビジネスプランコンテスト(学生サポートセンター主催)でアイデア賞とダブル受賞した。

簿記2級を取得している山賀さんは、もとは国税専門官志望だった。好奇心が旺盛で2年次のときに本学のベンチャービジネスコンテスト(キャリアデザインセンター主催)に出場し学生食堂の活用策を提案、優秀賞を獲得した。

## ビジネスアイデアコンテストで次々受賞

### 山賀 美裕さん(商4)



▶ 大林守国際交流センター長(中央)を囲んで

## 14年度中期留学生に12人

### 2014年度中期留学生

- オレゴン大学(米国) 留学生12人が決まった。
- ▽荒川晴菜(経済2)
- ▽森上瑠子(商3)
- ▽本間彩音(文3)
- ▽益田紗希(文3)
- ▽柳田晴誉(文3)
- ▽齊藤朱臣(文3)
- ▽品田真歩(文3)
- ウーロンゴン大学(オーストラリア) 留学生12人が決まった。
- ▽小野圭介(経済3)
- ▽新井麻由(経営2)
- ▽目良圭佑(文3)
- ワイカト大学(ニュージーランド)
- ▽古井雅貴(文3)
- ▽八田真緒(文3)



## 寺尾 格 外国語教育研究室長

「LL教室」は今年の4月から最新のWindows 8.1にバージョンアップすると共に、情報科学センターとも完全に統合して、各自のアカウントでの利用も可能となります。この機会にLL教室も、単なる「視聴覚機器利用」を

## e-learningでの外国語学習を「CALL教室」で!

思わせる旧名称から、「CALL教室(Computer Assisted Language Learning)」へと正式に名称の変更を行いました。「LL(Language Laboratory)教室」の旧名称は、ひとりひとりがブースに籠もって機器と向き合う「閉じた個人作業」のニュアンスが強いです。むしろ自立した学習を「開かれたコミュニケーション」へと結びつけるような「コンピューター支援による外国語教室」をめざすという趣旨です。



▲ CALL教室のコンピュータ、映像機器も充実

紙と鉛筆だけで受け身に学ぶ外国語から、耳と口と手足をフル活用しながら、相手と全身で向き合う態度が「語る」「聴く」「考える」というアクティヴに外国語を学ぶ行為です。

専修大学の学生であれば、三種類のe-learning 英語教材がインターネット環境で使い放題となります。自分の実力に合ったレベルから始められます。大意のヒアリングや語彙や文法等々、様々な質問に答えながら同じ英文を読み返し、聞き返している中で、実践的な表現力が蓄積されていきます。自然に続けられるように工夫されていて、なかなか良く出来ています。内容をさらに充実させたいとも思っていますので、学生諸君の利用の感想などをお寄せ下さい。 ※短縮版。全文はCALL教室ホームページで。